

アンケート調査結果（総括）

1 保護者・市民の調査結果 資料3(要点)

問5 教育内容（ソフト）

- | | | | |
|-----|--------------|-----|----------------------|
| 第1位 | 学力向上・教育の質の確保 | 第2位 | 多様な考え方に触れられる・学びあえる機会 |
| 第3位 | デジタル化・グローバル化 | 第4位 | 豊かな人間形成 |

問6 学校施設（ハード）

- | | | | |
|-----|---|-----|----------------------|
| 第1位 | デジタル化対応・情報教育環境 | 第2位 | 多様な学びができる環境（個別・グループ） |
| 第3位 | 安全・安心で快適な環境（老朽化対策、バリアフリー化、再生可能、省エネルギー化） | | |

問7・8 人口減少・少子化の認識

現在 7割が影響あると認識 ▶ **将来** 9割が影響あると認識

■対応すべき課題

- | | | | |
|-----|--------------------------|-----|-------------------------|
| 第1位 | 選択肢小からの教育効果低下、 | 第2位 | 集団生活への適応、コミュニケーション能力の懸念 |
| 第3位 | 人間関係の固定化（男女比の偏り、クラス替え不可） | | |

■課題解決策

- | | | | | | |
|-----|--------|-----|-------------|-----|---------|
| 第1位 | 統廃合と交流 | 第1位 | 他校との合同活動・行事 | 第3位 | オンライン活用 |
|-----|--------|-----|-------------|-----|---------|

問9・10 1つの学年における望ましい学級数

- | | |
|-----|----------------------------|
| 小学校 | 2～3学級（3学級 5割強）※複式学級は解消の声あり |
| 中学校 | 3～4学級（3学級 5割強） |

問11・12 1学級あたりの望ましい児童生徒の人数

- | | | |
|-----|-----|------------------------------|
| 小学校 | 中学校 | 20～30人程度（9割）※中学校は30人程度の割合が増加 |
|-----|-----|------------------------------|

問13・14 望ましい学校数（統廃合）

- | | | |
|-----|-----|------------------|
| 小学校 | 中学校 | 統合を望むが9割、現状維持が1割 |
|-----|-----|------------------|

問15 小中一貫教育のあり方

小中一貫教育を望むが5割強（現状維持には制度イメージがつかないとの声も多い）

問16 学校統廃合の経験

統廃合をして良かった 6割強

2 教職員・児童生徒の調査結果 資料4(要点)

■教職員

・教育のデジタル化・DX化を望む 9割 ・学校統廃合の検討に肯定的 8割

■児童生徒

・1学年にたくさんの友人がいた方がよい（35人以上 クラス替えあり） 7割強

・望ましい学校 ※第1位は、保護者・市民とは異なる傾向

- | | | | |
|-----|----------------------------------|-----|---------------|
| 第1位 | いじめや差別のないみんなが楽しく学べる学校 | ソフト | 誰一人取り残さない教育 |
| 第2位 | 様々な考え方にふれ、仲間と学び合える学校 | ソフト | 協働的な学び・グループ活動 |
| 第3位 | 安全・安心で快適な学校（きれいな校舎校庭・トイレ・バリアフリー） | ハード | 老朽化対策 |
| 第4位 | 1人ひとりに応じた能力をのばせる学校 | ソフト | 学力向上、個別最適な学び |

3 アンケート分析

(1) 学校の望ましい教育（ソフト・ハード）⇒ 概ね意見交換会や検討委員会と同じ方向

※児童生徒1位「いじめや差別のないみんなが楽しく学べる学校」にも配慮。

(2) 現状・将来の認識 ⇒ 課題があり、統廃合の他対応を望む声が多い

(3) 課題解決策 ⇒ 統廃合、交流、合同活動、オンライン活用

(4) 経験（統廃合、複式学級、小規模）⇒ 統廃合に肯定的

(5) 提案・意見（自由記述）⇒ 概ね意見交換会と同じ（教育内容、統廃合を望む）

分析結果からも、望ましい教育の実現や課題を解決していくには、

学校の統廃合を避けては通れない状況にある。

4 本委員会への諮問内容（第1回検討委員会 R6. 7. 26）

上山市の小・中学校の将来の基本的なあり方（下記2点）について検討していただく



今回のアンケート結果、分析結果をまとめると

諮問1 未来に夢と志がもてる魅力ある学校づくりについて（教育内容・ソフト）

■普遍的な考え ※平成20年3月策定「上山市立小・中学校将来構想」時と同じニーズ

- ①学力向上・教育の質の確保 ▶ 複式学級解消 ▶ 中学校の教科担任確保（1学年3学級）
- ②豊かな人間形成 ▶ 切磋琢磨できる教育環境、部活動など集団での教育活動
- ③学級数・児童生徒数 ▶ 小学校 2～3学級 中学校 3～4学級 学級人数 20～30人程度

■時代の変化で新たに求められる考え

- ①デジタル化（情報教育）・グローバル化（英語教育）への対応
- ②多様な考えに触れる、学びあえる機会の創出
- ③誰一人とり残さない教育（多様性、いじめ、障がい、不登校）
- ④子どもの希望にこたえられる選択肢のある集団活動、部活動、⑤学校と地域との共創 等

諮問2 時代に対応した教育環境整備の推進について（施設整備・ハード）

- ①デジタル活用能力を育成できる充実したコンピュータ等の ICT・情報教育環境
- ②多様な学びができる設備環境（個別・グループ活動ができるスペースの確保等）
▶ 「個別具体的な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- ③安全・安心で快適な学習環境（老朽化対策、バリアフリー化、再生可能・省エネルギー化）
- ④人口減少に見合った持続可能な財源対策、経費節減（運営費・建替経費 等）

5 アンケート結果を児童生徒の推移にあてはめた場合のシミュレーション 資料5② 参照

(1) **現状維持**（アンケート**少数意見**）とした場合

小学校 5年後には、全4校が、望ましい教育から乖離

中学校 8年後には、全3校が、〃

(2) **望ましい教育内容**（アンケート**多数意見**）を実現していく場合

既に望ましい姿から乖離している学校が発生。

数年内に全校が望ましい教育から乖離することが予見できる状況であることから

学校統廃合の形態（いくつか・ひとつ）を問わず、早急な検討と対応が必要。